

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○開催目的

人口減少社会においても地域コミュニティが持続し、地域づくりに意欲の持てる地域社会の実現に向け、今後の地域コミュニティの運営や必要な支援制度を考える場として開催しています。持続可能な地域コミュニティの在り方をみんなで方向付けていきます。

○委員（五十音順）

井上 誠	地域づくり塾参加者
江口 千種	福山市PTA 連合会幹事
後藤 健之	地域づくり塾参加者
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
委員長 渡邊 一成	福山市立大学教授 地域連携フェロー
渡邊 千裕	地域づくり塾参加者

○オブザーバー

櫻井 常矢（福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー）
澤 尚幸（福山市政策アドバイザー）

○開催スケジュール

※会議時間はいずれも1時間30分

- 第1回 8月29日（木）19時30分～ 地域活動の負担感を共有，改善策の検討
- 第2回 9月19日（木）19時30分～ 地域支援の在り方の検討
- 第3回 10月28日（月）19時30分～ 地域組織の在り方の検討
- 第4回 11月23日（土・祝）14時～ モデル事業の共有，これからの地域コミュニティの在り方を検討
- 第5回 1月20日（月）19時30分～ 検討委員会の意見をとりまとめ，市長へ報告

※3月15日（日）に「（仮称）これからの地域づくりを考えるシンポジウム」を予定

第4回福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

○日時

2019年（令和元年）11月23日（土・祝）14:00～15:40

○会場

福山市役所本庁舎3階 中会議室

○プログラム

- 1 振り返りと説明
 - ・第3回検討委員会の振り返り
 - ・地域コミュニティ再構築検討会議（庁内会議）における検討状況について
- 2 持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業について
 - ・持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業の概要
 - ・モデル地域について
- 3 意見交換
 - ・これからの地域コミュニティのあり方について

○第3回検討委員会の振り返り（渡邊委員長）

地域組織のあり方について、各委員が1分間スピーチにより、自らの団体活動について率直に振り返り、「所属団体の設立目的」「所属団体が取り組んできた活動」「全市組織にこれから求められる活動・これから取り組んでもらいたい活動」について共有した。



○持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業について共有

- 1 持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業の概要
 - 2 モデル地域の取組（曙学区，新市学区）
 - ・地域の課題，なりたい地域像，座談会の内容，地域住民の意見について紹介
- ※詳細は、[各地域のレポートを参照](#)

○意見交換

- 1 これからの地域コミュニティのあり方について
- 2 松永地区まちづくり推進委員会連絡協議会の取組を共有
- 3 各委員が自らの団体の課題，取組の考え方を発表

テーマ	人口減少時代の地域コミュニティのあり方の検討
目標	今後の各民主団体の課題・取組について考える

今後の各民主団体の課題・取組の考え方

福祉を高める会



幅広い年齢層にアプローチして活動しているが、一般の方に関心が薄いということを実感している。これから高齢化社会に「福祉」は欠かせない。50～60歳代の方々に、活動に関心を持っていただいて協力体制をとってほしい。バトンタッチをして、次の世代にうまくつなげたい。

老人クラブ連合会



会員の高齢化が進んでおり、体力低下や疾病、孤独・孤立が多く見られている。健康寿命を延ばすために、できるだけ楽しい集いや話し合いの場を多くもって、人と人との助け合い、支え合う活動をめざしたい。そういう活動に幅広くお手伝いいただければありがたい。

社会福祉協議会



地域づくりというのは地域課題の解決、地域の暮らしを支えるということであり、まさに「地域福祉」である。地域の課題は他人事ではなく、自分のこととして解決していく。またそういう仕組みを作っていく。様々なことを包括的に受ける相談支援体制を作る。行政・社会福祉協議会、幅広い団体の協働の中で地域共生社会の実現に取り組み、その中核を社会福祉協議会が担っていく。

自治会連合会



1点目は、自治会・町内会への加入促進の取組により組織強化を継続する。向こう三軒両隣が、顔が見える状況にあることが必要。

2点目は災害の取組を行政とタイアップして行う。

3点目は回覧・配布物について精査するところは精査し、スリム化できるところはする。これまで行政の様々な部署からバラバラに自治連へ依頼が来ていたため、今年度からは各局に依頼し、協働のまちづくり課に窓口を一元化してもらい、連携の効率化が図られている。

女性連絡協議会



取組目標を明確にし、それに賛同・共感してくれる団体を見つけ対話し交流し、将来的には連携をして、活動をより広めていく取組が重要だと考えている。また、リーダーが受け身から能動の姿勢で課題に取り組めるような成長をめざす。そのために情報収集力や課題の明確化、考えをまとめて行動できるよう、一人ひとりが育成されることが重要である。

まちづくり推進委員会、 町内会連合会 (地域づくり塾修了者)



地域内の住民の皆さんの協働により、今は活動がうまくいっているが、人口減少・少子高齢化が進み、今後は活動ができなくなる人が出てくると不安がある。防災訓練の内容もこれから先は考えていかななくてはならない。これからの後継者（40歳代50歳代の世代）と防災訓練等が課題と思う。

公衆衛生推進協議会



1点目は、地域のマンパワー不足により、学区の公衆衛生委員会を解散し、全市組織である協議会から脱退する地域が出始めている。このような場合、まちづくり推進委員会や自治会・町内会から役員を出してもらい、協議会と学区のコミュニケーションを図っている。今後は地域と全市組織の関係性をどうやって再構築するかが大きな課題である。

2点目は公衆衛生の役割。災害時の薬剤配布からごみステーションの管理やイベント時のごみ分別へと変わってきているが、自分たちができる公衆衛生活動を考え、地域の衛生意識、環境意識をどのように育てるかが課題だと思う。

単位町内会

(地域づくり塾修了者)



一番の課題は役員の後継者を探すことと世代を交代していくためにどうするかということ。地域で活動するときには10年後20年後続くようにする。自分たちだけではなく、新しい人を入れるような努力や、違うグループの意見、新しい意見を聞き、活動に取り入れるようにする。新しい人を地域の輪の中に入れていくために、こちらから声かけをしていくことが必要だと思う。

PTA 連合会



少子化が進んでいくなか地域とのつながりが薄れていく可能性があるため、まずは地域とのつながりを絶やさない努力が必要だと思う。地域の協力があるPTAだと考えているため、重要なことは、つながりだと考えている。課題が発生した場合はその都度早急に対処していきたい。

子ども会育成協議会



会員数の減少と指導者の高齢化が課題である。どうやって保護者の負担を減らし、会員数の維持・増加につなげていくか。地域が子どもを育てていく親をサポートしないと難しい。地域と協力しながら子ども会をより良くするためにどうしたらいいかを考えていきたい。

まちづくり推進委員会

(地域づくり塾修了者)



1点目は、みんなと、地域の中でよく話し合うことが大切であり、「年齢の差関係なくみんなが楽しめる会」を作る。新しく課題が出た場合は、少しずつ具体的にみんなと相談していきたい。

2点目は行事や会議を統合する。①学区のフェスタと市の総合防災訓練を一緒にする ②同じ人が出席する会議を一緒にする ③地域内の各種団体の年間行事を前もってすりあわせてブッキングをしないようにするといったことを実践する。

明るいまちづくり協議会



1点目は組織について検討したい。各学区から中央委員(1名)を選出して頂いている。中央委員の負担等について会員に十分聞きたい。

2点目は活動について検討したい。財源は会費と市補助金である。主な活動の多くは行政の施策と一致しており、行政と明るいまちづくり協議会で連携して取り組んできた。活動は、事務局(市職員)に頼っている状況であり、自主自立の団体としてはこのままではいけないと思っている。今後のあり方を会員や各委員会の委員と時間はかかるが検討していきたい。

○委員長の意見・まとめ



皆さんの意見には共通点がある。

- ① 取組方法として、「情報収集する。」「世代交代のために色々な人を誘う。」「話し合いで理解を深める。」など地域のつながりや協力が大事であるという考え方が重要
- ② 「お互いの取組で一緒にできるところは一緒にする。」「似たことをしているなら一緒にする。」「お互いの団体が調整する。」ことも必要